

2019年度 第3回理事会

議事報告書

1. 日時 2019年9月26日(木) 午後2時～午後4時30分
2. 場所 JAPAN・SPORT・OLYMPIC・SQUARE 3階 会議室1

3. 出席者 出席理事20名、出席監事1名

会長(議長)	高橋 義博(神奈川)
副会長	不老 安正(福岡)、三浦 正義(秋田)、 丸石 博(島根)
専務理事	及川 悦郎(本部) *強化委員長
常務理事	佐藤 和夫(秋田) *競技委員長
常務理事	中園 功一(鹿児島) *審査委員長
常務理事	増田 正起(静岡) *総務委員長
理事	坂井 則寿(北海道)、渡辺 久雄(栃木)、 本戸 歳知(埼玉)、菊本 哲也(東京)、 柏木 孝則(三重)、瀧根 隆幸(富山)、 森 秀樹(滋賀)、井出 益弘(和歌山)、 清水 光一(広島)、安田 岸雄(愛媛)、 夏樹 陽子(芸文)、佐藤 堅司(北海道)
監事	相馬 正(青森)

4. 陪席 大江 直之(事務局長)

5. 理事会定足数確認

本理事会の定足数について、理事総数20名全員出席となり、定款第43条の規定により過半数以上の理事が出席しているため成立したことを事務局長より報告。

6. 議長挨拶及び議事録署名人確認

事務局長より、定款第42条に基づき高橋義博会長が本理事会の議長を務める旨説明し、高橋議長より、本理事会の議事の経過を議事録とし議事録署名人については、定款第47条に基づき、議長と出席監事である相馬正氏の2名となる旨説明。

また、審議に先立ち、高橋議長より出席理事各位に対し、挨拶と議事進行に際しての協力依頼があった。

7. 3R 宣言唱和

増田総務委員長より、平成 28 年度定時社員総会において承認された 3R 宣言 8 項目を唱和。

8. 報告事項

(1) アジアクレール選手権大会（カザフスタン）について

事務局長より次の通り説明し、了承された。

去る 9 月 24 日からカザフスタン・アルマティ市にて開催されている標記大会について、スキート女子・男子種目の成績は次の通り。

- ◇スキート女子種目：石原奈央子 113 点 第 8 位
折原 梨花 111 点 第 13 位
- ◇スキート男子種目：折原 研二 115 点 第 12 位
丸山 和成 106 点 第 25 位

なお、トラップ女子種目は 9 月 26 日から、トラップ男子種目は 9 月 28 日から試合開始となる旨を補足説明。

(2) 秋季本部公式大会（岡山）について

事務局長より次の通り説明し、了承された。

去る 9 月 21 日から 22 日まで開催された標記大会について、トラップ A25 名・B35 名、スキート 28 名（クラスなし）、計 88 名の選手が参加、台風の影響が懸念されたが無事終了。

- ◇トラップ優勝者：(A クラス) 川邊 貴典 (高 知)
(B クラス) 田口 雅士 (三 重)
- ◇スキート優勝者：(クラスなし) 脇屋 昂 (三 重)

(3) 射撃場調査表集計結果について

事務局より次の通り報告説明し、了承された。

過日、理事会で改定承認された射撃場評価基準に基づく調査票を 70 箇所の公認射撃場へ送付し、回答結果を集計。配布資料の通りとなった。

書面による自己申告制で行った結果疑義がある射撃場もあり、再調査が必要であることを申し合わせた。

- | | | | |
|---------|---------|-------|--------|
| AAA クラス | : 9 箇所 | A-クラス | : 6 箇所 |
| AA クラス | : 24 箇所 | 公認返上 | : 1 箇所 |
| A+クラス | : 29 箇所 | 未回答 | : 1 箇所 |

(4) 2020年東京五輪の選手選考について

及川専務理事（強化委員長）、事務局より次の通り報告説明し、了承された。

これまでに理事会で説明した通り、標記五輪に対してホスト枠があり、トラップ男子・女子、スキート男子・女子 計4つある。トラップ・ミックスについては開催国枠が無いいため、トラップ・ミックスにはクォータ（QP）を獲得しないと出場できない。

また、各種目へ最大で2名ずつ参加できるため、2名参加したい場合には、他の国と同様にQPを取らなければならない。例えば、トラップ女子でA選手がQPを取ったら、そのトラップ女子のホスト枠は返上することになり消滅してしまう。つまり、ホスト枠+A選手とはならない。

1種目2名参加するにはQPを2つ取らないと出場できないということになり、また、ホスト枠選手であってもMQSを取得していなければならない。

これまでの経緯で、強化委員会はMQSの門戸を広げた結果、トラップ女子種目大前選手とスキート女子種目南谷選手の僅か2名しかMQSの追加取得は無かった。予選方法は従来通り、QPが付与された2018年世界選手権（韓国）の大会以降、予選会の開催時点で終了しているワールドカップ等の成績を基に基準点を設け、この基準点をクリアした選手を派遣選手とするということで実施した。

現在の特別強化指定選手については、8月末で全てを解除、現在指定されている選手は次の通り。

- ◇トラップ男子種目：大山重隆（埼玉）
- ◇トラップ女子種目：中山由起枝（茨城）、大前有希（兵庫）
- ◇スキート男子種目：井川寛之（神奈川）、丸山和成（群馬）
- ◇スキート女子種目：石原奈央子（栃木）、折原梨花（栃木）

前述選手が、11月開催のアジア大陸選手権大会（カタール）の派遣選手となっている。

2020年東京五輪の選手選考の骨子については次の通り。

◇前提1：アジア大陸射撃選手権大会において決定

- (1) QP獲得選手を内定選手として決定
- (2) QPを獲得できなかった種目はホスト枠選手となる。

ホスト枠選手については、当該種目において成績上位の選手を内定選手として決定

◇前提2：理事会

11月のアジア大陸選手権大会終了後、東京五輪の内定選手が出揃うため、理事会へ上程・承認をいただく。

(5) その他

◆2020年テストイベントについて

事務局長より配布資料に添って説明。

2020年4月15日からオリンピック本番に向けたテスト・イベントが朝霞射撃場（仮設）で実施される。組織委員会は、10月に手元資料として配布した実施要項を各国に回したいため、校正依頼が届いている。

◇競技会場レイアウト（併用3射面）

◇施設詳細（放出機・クレー標的はLaporte社製）

◇実施種目（男子トラップ、男子スキート、女子トラップ、女子スキート、ミックストラップ 計5種目）

◇大会規模（300名程度）⇒ QP獲得NFを招待

◇競技日程（4月16日 arrival～4月26日 departure）

◇登録〆切 *オペレーターエントリー〆切：10月31日

*プレエントリー〆切：12月13日

*最終エントリー〆切：2月14日

◇受入空港（羽田・成田の2ヶ所のみ）

◇メインホテル（池袋のサンシャインシティホテル）

◆埼玉県クレー射撃協会について

事務局長より配布資料に添って説明。

埼玉県協会では関東ブロック理事と相談しながら、先日総会が開かれ、田口会長に代わって栗原氏が新会長として選任され、過日、会長や事務局の変更届と、それに伴う議事録や総会議事録が本部事務局へ届いている。正会員は従来通り本戸歳知氏が継続。各委員会メンバーについては、総務委員長：関根氏、競技委員長：乙川氏、倫理委員長：金山氏、強化委員長：栗原氏、審査委員会：記載なしとなっている。辞められた田口会長は関東ブロックの審査委員長になっていたため、後任委員長をブロックで選出する必要がある。また、来る10月12日に第1次埼玉公式大会を皮切りに合計4回、3月までに地方公式大会を計画しているので承認願いたいという申請も届いているため、同協会の役員変更と地方公式大会申請の対応について、ご指示いただきたい。

地方公式大会計4回の実施会場について質問があり、事務局長より3回ニッコー栃木、1回百穴、いずれも100個撃ちの申請である旨説明。

前回、地方公式大会の実施会場が県外射撃場ばかりであったことが問題となった経緯があるにも拘わらず、今回も4回のうち3回が県外であること、審査委員長は選任されていない理由など、議長より本戸理事へ質問したが十分な説明が得られなかった。

議長より、関東ブロック総務委員長である菊本理事が責任者となって、地方公式大会の実施会場や審査委員長選任など確認し、次回の理事会で報告することになった。また、埼玉県協会の審査委員会メンバーが居ないということは大会時の審査団を務める者が居ないと同意なので、現在届いている公式大会申請も一時保留扱いとすることになった。

9. 審議事項

- (1) 2019年アジア大陸射撃選手権大会（カタール）派遣選手団について
議長より議案について、事務局長へ説明を求めた。

事務局長より次の通り説明。

強化委員会において複数回の予選を経て派遣選手団を編成、理事会へ上程されている。各位も承知の通り、2020年東京五輪のQP獲得最後の機会となる。強化委員会案についてご承認願いたい。

(派遣選手団案)

監督 及川悦郎

総務 永島宏泰

トラップ男子選手 大山重隆（埼玉）

トラップ女子選手 中山由起枝（茨城）、大前有希（兵庫）

スキート男子選手 丸山和成（群馬）、井川寛之（神奈川）

スキート女子選手 石原奈央子（栃木）、折原梨花（栃木）

*トラップミックス兼

質疑後、議長が議場に諮り、2019年アジア大陸射撃選手権大会（カタール）派遣選手団が承認された。

- (2) 2019年度全日本選手権大会実施要項について
議長より議案について、事務局長へ説明を求めた。

事務局長より配布資料に添って次の通り説明。

競技委員長と確認ながら実施要項案を作成、主要部は昨年と同様になっているが、例年全日本選手権大会事業はスポーツ振興基金の助成を得て実施しているところ、今期は環太平洋大会を助成事業としているため、助成が受けられない。従って、今期の全日本選手権大会は協会単独の実施事業となる。

実施期日や大会会場地、QP要件は適宜修正、ISSFルールブックが刷新されたため、ドレスコード表記も修正したが規制内容は昨年同様。賞典についても昨年同様となっている。本日理事会の承認が得られれば、ホームページへ告知し

た上で、QP 獲得選手へ参加希望調査を行いたい。

佐藤競技委員長より補足説明。

今期は東京五輪を目指す強化選手の都合により、女子選手権が成立規定数 12 名に満たない可能性がある。オリンピックを前に女子種目を盛り上げたいこともあり、競技委員会としては、特例として各種目 6 名の選手の参加申込があれば実施したいので、理事会で承認願いたい。

質疑後、議長が議場に諮り、2019 年度全日本選手権大会実施要項が承認された。併せて、全日本選手権大会の実施会場を固定すること、春夏秋季本部公式大会の実施会場を公募で決定することはやめていただきたい旨議長から要望があった。

また、競技委員長より次の通り要望があった。

これまでに 2 回、各ブロックの競技委員長を呼んで会議を行ったが、その会議の結果が当該ブロック傘下の地方協会へ何ら報告されていない。これではピラミッド式の組織構築ができないので、ブロック理事が各ブロック委員長を支えて報告会議を行うようにしてほしい。これは競技だけでなく、審査・強化・総務も同様である。

議長より、地方協会の在り方について理事会で今後議論する必要があるであろう。「ブロックの連絡協議会」という名称が適宜だろうか。ブロック間で差異があると問題が生じるので、総務委員会で原案を作成願いたい、と提案し了承。

(3) 2019 年度マスター・ビギナーズ実施要項について

議長より議案について、事務局長へ説明を求めた。

事務局長より配布資料に添って次の通り説明。

(ビギナーズ・マスター共通)

総務委員長と確認しながら実施要項案を作成。競技ルールや参加資格・条件を含め主要箇所は昨年通り。両大会とも、表彰式後くじ引き抽選会を実施。

放出セットは JCSA ルール通りが良いという意見があり、トラップ 65m (±1m)、スキート 60m (±1m) へ修正。また、ビギナーズへパラ部会選手の参加を認めてほしい旨の提案があり、これを了承。年齢的条件をクリアしていれば、マスターにもパラ部会選手が参加できることを申し合わせた。

議長が議場に諮り、2019年度ビギナーズマッチ大会・グランドマスター大会の実施要項が一部追加・修正を経て承認された。

(4) JSC 改善方策について

議長より議案について、事務局長へ説明を求めた。

事務局長より次の通り説明。

日本スポーツ振興センターから3年に1回監査が入るが、監査を経て当協会へ指摘事項が2つあった。去る9月2日、JSCより配布資料の通り調査結果に基づく改善方策を提出するよう書面による依頼が届いている。

- 1 他の経理と区分した収支簿と団体の会計帳簿の整理状況
- 2 関係書類の整理状況

詳細については配布資料の通りであるが、総務委員長と事務局で次の通り改善方策案を作成したので、理事会で承認願いたい。

《競技力向上事業について》

◇他の経理と区分した収支簿と団体の会計帳簿の整理状況

一部収入において、収支簿への計上漏れがあったため、団体の会計帳簿と収支簿等との整合が取れていなかった点は、総務委員長（担当役員）及び事務局において徹底した確認作業を行い、収支簿への計上漏れが発生しないよう努めます。

《スポーツ振興くじ事業について》

◇関係書類の整理状況

実態調査の当日に、センターからの通知文書（交付決定通知書）の確認ができなかった点についてはお詫び申し上げます。今後は二度とこのようなことが無いよう、総務委員長（担当役員）及び事務局において、適正な保管管理に努めます。

質疑後、議長が議場に諮り、JSC改善方策原案が承認され、承認された改善方策を書面でJSCへ提出することを申し合わせた。

(5) 地方協会の役割について

議長より議案について、事務局長へ説明を求めた。

事務局長より次の通り説明。

各位のご理解を深めるため、事前に「会長所信」という表題で高橋会長の意向を事前にレポート形式で各位へ配布させていただいた。過去の協会におけるト

ラブルについて、それから、トラブル発生に伴う様々な弊害があり、国体の隔年開催もその一つである。補助金が凍結されたことで強化事業がストップしたこともある。

昨今の日本スポーツ界では、コンプライアンス、ガバナンス、インテグリティが求められているが、当協会ではそれ以前に、二度と今までのような不祥事や問題が起こさないためには、潜在的なことを変えていかなければいけないと考えている。例えば、定款の研修会もその第一歩である。

今後特にエネルギーと時間を要すると考えているのが、地方協会関係者の認識を改めていかないと、協会全体の改善に繋がらない。今後このような議論を理事会で実施していきたい考え、「会長所信」という題目で各自にレポートを配付させていただいた経緯である。

各位より、ご意見、ご質問、活発な議論をお願いしたい。

議長より補足説明。

一番肝心なことは、定款に明記されている「クレール射撃の普及・振興と競技力向上」という団体目的であり、これを地方協会がどう理解して考えるか。また、ピラミッド型の組織を形成するとき、最下層に都道府県協会があり、その上にブロックがある、その上に委員会・理事会がある。理事会は、叡智に優れた協会の頭脳集団であるべきと考えている。

先ほど近畿ブロック代表の森理事から伺ったが、ブロック会議時に兵庫県会長が弁護士を同伴して来たようだ。弁護士を連れてくるのであれば、他県も弁護士を同伴させるようになり、これでは「団体自治とは何か？」という議論に繋がってしまう。大事なことは協会長は傘下会員のためにどう働くか、に尽きる。会員を置き去り、自己弁護を優先するのであれば本末転倒だ。

一例を挙げれば「地方公式大会」の認識を変えたい。

地方協会は、公式大会のみ実施しそれを資金源にして生き延びようとする。この行為に、「普及・振興や競技力向上」があるのか？大会であれば開・閉会式等の式典があつて当然、競技ルール上審査団や競技委員長が配置されて当然、優勝者を讃える賞典があつて当然。その結果、果実として利益が出るためにはどうしたら良いか？これを考えるのが協会の競技委員会や総務委員会、理事会であるべき。

議長より提案。

地方協会の役割について議論を始める前に、総務委員会から各地方協会へアンケートを送り、クレール射撃の普及・振興や競技力向上に関する取組みや認識のアンケート調査の結果を見て議論してほしい。

総務委員長、了承。

(6) その他

◆兵庫県協会について

近畿ブロック森理事より次の通り状況報告。

前回の理事会が行われた7月下旬、兵庫県協会では会長以下理事や事務局が辞職し、新会長が選任されたが、旧会長・事務局から何の引き継ぎも無く、通帳・印鑑や書類を意図的に引き渡していないようだ。

前回の理事会でも兵庫県協会に関する近況報告をしたことが、旧会長の耳に入り、旧会長の弁護士から近畿2府4県、滋賀以外の協会会長宛てに「森の報告はおかしい」という文面が送達される状況である。

その他、マスコミにまで投書が行く状況があり、補助金問題に対して兵庫県体育協会が対処するというようになっている。

その他、国体選手の変更要望が出てきている。これは、旧理事の者が、ブロック予選前に体制が変わったにも拘らず、ブロック予選終了後、印鑑を引き渡さない旧理事が会長印等を使い新会長へ報告も無く、兵庫県体育協会へ申請し、装弾代等の金員も振り込まれているようだ。

この件は国体担当でもある丸石副会長へ相談している。

一方で、兵庫県協会がそのような状況下、ワールドマスターズゲームズ関西2021の主管協会となっているため、このままでは成り立たないだろうという認識を持ちブロック会議を行い、近畿ブロックがまとまってマスターズを支えるための組織を作ろうとしており、これは後日、書面で報告したいと考えている。

その他、京都府協会に関する問題も一部説明。

夏樹理事より提案。

今日理事会へ出席されている各位は、ブロックや県協会内でそれなりの要職に就かれていると思うが、その中に「女性」を極力入れていくよう考えられたらどうか。

女性は争い事と不正が嫌いなので、少しでもおかしいことがあれば、周りや上部団体へ発信する。会長になりたいとか、そういう欲もあまり女性は無いし、割と真面目な方が多い。女性ならではの気付きというものもあるので、是非ご検討願いたい。

現在自分は、芸文ガングラブの顧問ではあるがあまり自分が生かされていると感じていない。今後は、理事・監事各位に少しでも役に立ちたいと考えているので、大会時に何かお手伝いできることがあれば気楽に声を掛けていただきたい。

議長より、以上で報告事項、議案審議の総てが終了したことを告げ、出席各位への慎重審議に対して謝辞があり、閉会を宣した。

なお、次回の理事会は2019年11月20日に行うことを確認した。

16時30分 閉 会